

多段階浸水想定図及び 水害リスクマップについて

令和5年3月29日(書面開催)

鈴鹿川外・雲出川外・櫛田川外・宮川外
流域治水協議会

「流域治水」の施策のイメージ

- 気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、河川の流域のあらゆる関係者が協働して流域全体で行う治水対策、「流域治水」へ転換。
- 治水計画を「気候変動による降雨量の増加などを考慮したもの」に見直し、集水域と河川区域のみならず、氾濫域も含めて一つの流域として捉え、地域の特性に応じ、①氾濫をできるだけ防ぐ、減らす対策、②被害対象を減少させるための対策、③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策をハード・ソフト一体で多層的に進める。

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

雨水貯留機能の拡大 集水域
 [国・市、企業、住民]
 雨水貯留浸透施設の整備、
 ため池等の治水利用

流水の貯留

河川区域
 [国・県・市・利水者]
 治水ダム建設・再生、
 利水ダム等において貯留水を
 事前に放流し洪水調節に活用
 [国・県・市]
 土地利用と一体となった遊水
 機能の向上

持続可能な河道の流下能力の維持・向上

[国・県・市]
 河床掘削、引堤、砂防堰堤、
 雨水排水施設等の整備

氾濫水を減らす

[国・県]
 「粘り強い堤防」を目指した
 堤防強化等

② 被害対象を減少させるための対策

リスクの低いエリアへ誘導/
 住まい方の工夫
 [国・市、企業、住民]
 土地利用規制、誘導、移転促進、
 不動産取引時の水害リスク情報提供、
 金融による誘導の検討

氾濫域
 浸水範囲を減らす
 [国・県・市]
 二線堤の整備、
 自然堤防の保全



③ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

土地のリスク情報の充実 氾濫域
 [国・県]
 水害リスク情報の空白地帯解消、
多段型水害リスク情報を発信

避難体制を強化する
 [国・県・市]
 長期予測の技術開発、
 リアルタイム浸水・決壊把握

経済被害の最小化
 [企業、住民]
 工場や建築物の浸水対策、
BCPの策定

住まい方の工夫
 [企業、住民]
 不動産取引時の水害リスク情報
 提供、金融商品を通じた浸水対策
 の促進

被災自治体の支援体制充実
 [国・企業]
 官民連携によるTEC-FORCEの
 体制強化

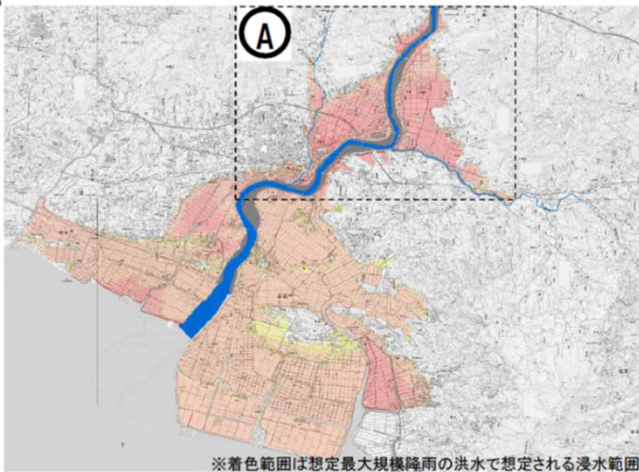
氾濫水を早く排除する
 [国・県・市等]
 排水門等の整備、排水強化

水害リスク情報の充実

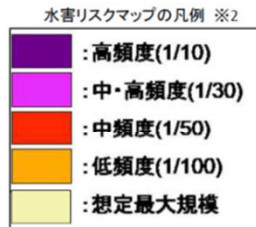
- 従来、想定最大規模降雨の洪水で想定される浸水深を表示した水害ハザードマップを提供し、洪水時の円滑かつ迅速な避難確保等を促進。
- 今後は、これに加えて、浸水範囲と浸水頻度の関係をわかりやすく図示した「水害リスクマップ（浸水頻度図）」を新たに整備し、水害リスク情報の充実を図り、防災・減災のための土地利用等を促進。

水害リスク情報の充実

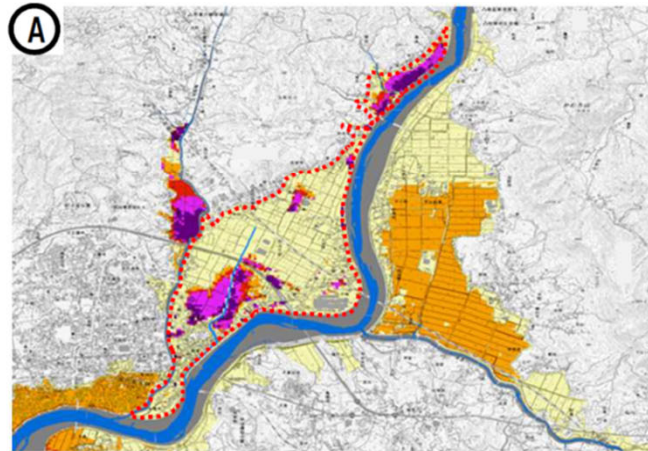
○水害ハザードマップ



○水害リスクマップ※1



※2 上記凡例の()内の数値は確率規模を示していますが、これは例示です。



..... 内水氾濫浸水解析対象範囲

水害リスクマップの活用イメージ

現在の水害リスクと今後実施する河川整備の効果を反映した将来の水害リスクを提示し、以下に取り組む

- 住居・企業の立地誘導・立地選択や水害保険への反映等に活用することで、水害リスクを踏まえた土地利用・住まい方の工夫等を促進
- 企業BCPへの反映を促進することで、洪水時の事業資産の損害を最小限にとどめることにより、事業の継続・早期復旧を図る

現在(外水氾濫のみ)

整備後(外水氾濫のみ)



【令和4年度の国土交通省としての取組】

- ・全国109の一級水系において、外水氾濫を対象とした水害リスクマップの作成を完了させるとともに、先行して、特定都市河川や水災害リスクを踏まえた防災まちづくりに取り組む地区において、内水も考慮した水害リスクマップを作成

水害リスク情報の充実

○これまで、水防法に基づき住民等の迅速かつ円滑な避難に資する水害リスク情報として、想定最大規模降雨を対象とした、「洪水浸水想定区域図」を公表してきました。

○これに加え、土地利用や住まい方の工夫の検討および水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討など、流域治水の取組を推進することを目的として、発生頻度が高い降雨規模の場合に想定される浸水範囲や浸水深を明らかにするため、「多段階の浸水想定図」及び「水害リスクマップ」を作成・公表することとしました。

○「多段階の浸水想定図」とは、公表済みの想定最大規模より頻度の高い複数の年超過確率毎に作成した浸水想定図のことです。

○今回作成した「多段階の浸水想定図」は以下の年超過確率の図面です。

1/10、1/30、1/50、1/100、1/150(1/150は鈴鹿川水系のみ)

○「水害リスクマップ」とは、1/10～想定最大規模の降雨により浸水した場合に想定される「多段階の浸水想定図」を重ね合わせたもので、年超過確率毎の浸水域を示した図です。言わば、浸水頻度図のことです。

○今回作成した「水害リスクマップ」は以下の浸水深の図面です。

浸水深0cm以上

浸水深50cm(床上浸水相当)以上

浸水深3m(1階居室浸水相当)以上

○「多段階の浸水想定図」及び「水害リスクマップ」は、河川整備の進捗段階毎に作成予定です。

○河川整備の進捗段階は、流域治水プロジェクトのロードマップと整合させる予定です。

現況(令和2年度末)

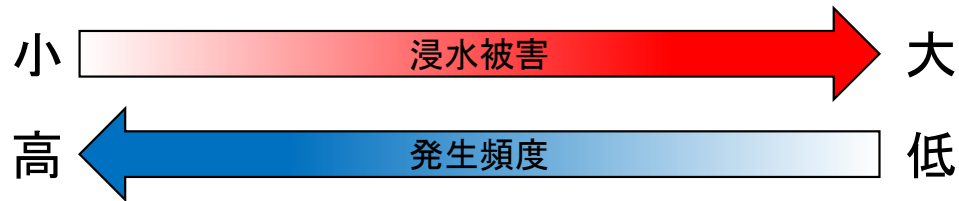
短期(令和7年度末)

中期(概ね10～15年後の事業の節目)

中長期(河川整備計画完了)

公表予定表

○国管理河川の氾濫のみを考慮した(外水氾濫の)、中期(概ね10~15年後の事業の節目)、中長期(河川整備計画完了)の「多段階の浸水想定図」及び「水害リスクマップ」は、令和5年3月31日の公表を予定しています。



	河道条件	多段階の浸水想定図					水害リスクマップ		
		年超過確率 ※2					浸水深		
		1/10	1/30	1/50	1/100	1/150 (鈴鹿川水系のみ)※3	浸水あり	50cm(床上浸水相当)以上	3m(1階居室浸水相当)以上
外水氾濫 ※1	現況 (令和2年度末)	公表済 (令和4年9月末)	公表済 (令和4年9月末)	公表済 (令和4年9月末)	公表済 (令和4年9月末)	公表済 (令和4年9月末)	公表済 (令和4年9月末)	公表済 (令和4年9月末)	公表済 (令和4年9月末)
	短期 (令和7年度末)	公表済 (令和4年9月末)	公表済 (令和4年9月末)	公表済 (令和4年9月末)	公表済 (令和4年9月末)	公表済 (令和4年9月末)	公表済 (令和4年9月末)	公表済 (令和4年9月末)	公表済 (令和4年9月末)
	中期 (概ね10~15年後の事業の節目)	今回公表 (令和5年3月末)	今回公表 (令和5年3月末)	今回公表 (令和5年3月末)	今回公表 (令和5年3月末)	今回公表 (令和5年3月末)	今回公表 (令和5年3月末)	今回公表 (令和5年3月末)	今回公表 (令和5年3月末)
	中長期 (河川整備計画完了時)	今回公表 (令和5年3月末)	今回公表 (令和5年3月末)	今回公表 (令和5年3月末)	今回公表 (令和5年3月末)	今回公表 (令和5年3月末)	今回公表 (令和5年3月末)	今回公表 (令和5年3月末)	今回公表 (令和5年3月末)

※1 国管理河川からの氾濫

※2 毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/●●であることをいう

※3 計画規模の年超過確率が1/100より大きい場合は1/150 or 1/200 を加えている